

みどりのメッセージブック

みどりと暮らす
松戸に暮らす
豊かに暮らす

松戸の川を歩く
江戸川、坂川、新坂川——
市民とともに育んできた水辺の風景と
河川再生の歩みをたどります



清流復活と自然の再生を図った 河川敷の人工河川を行く

「ふれあい松戸川」をご存知ですか？

松戸地区の江戸川河川敷に造られた、全国的にも珍しい人工河川です。通水から30年近くを経て、その川沿いには豊かな河畔林が形成され、松戸を代表する緑地のひとつとなっています。なぜ、河川敷に川を造ったのか。そのいきさつもふり返りながら、ふれあい松戸川を歩きます。



樹林が覆う緑豊かな水辺景観

松戸駅西口から駅前通りを行くと、江戸川堤防に突き当たります。堤防に上がると、江戸川に沿って帯のように連なる樹林が見えます。その林間を流れているのがふれあい松戸川です。

堤防から、ふれあい松戸川を渡る橋に下りて、川の下流側を眺めてみましょう。そこには、河岸のヤナギが水面を覆うように茂るなかを、川面が奥へと続く風景があります。

松戸の中心市街から歩いて5分もしない場所に、どこかの湿原を思わせるようなこんな景色があるとは……初めて目にする方はきっと驚かされるでしょう。

それにしても、ちょっと気になりませんか？ 江戸川の河川敷に、なぜこのような小さな川がわざわざ造られたのでしょうか。その答えをうかがわせる場所がこの少し上流にあります。

フラワーライン、古ヶ崎のお花畑

橋から堤防下を林に沿って、川の上流へ歩きます。600mほど行くと、上葛飾橋を望む開けた場所に出ます。古ヶ崎地先のこの河川敷は、春にはポピー、秋にはコスモスの花が咲く、広さ約2haのお花畑になります。

「ここはかつてグラウンドでしたが、地下に浄化施設が造られて、グラウンドには不向きになったため、誰もが楽しめる花畑にしてはどうかと、私たちが提案したのがフラワーラインのはじまりです」

そう語るのは、江戸川松戸フラワーライン実行委員会の榎本孝芳さんです。同会の発足は1995(平成7)年。当時、松戸青年会議所の理事長を務めていた榎本さんが、市の河川清流課の支援を受けて近隣の町会や河川愛護団体、まちづくり団体などに声をかけ、始めた活動でした。

官民「協働のまちづくり」あるいは「パートナーシップの川づくり」という言葉が聞かれ始めたころです。フラワーラインの取り組みは、松戸におけるその先駆けとも言えます。



フラワーライン春(ポピー)



フラワーライン秋(コスモス)



フラワーラインは、2025年に30周年を迎えました。「さまざまな立場の人がつながりを持って、一緒に何かをつくり出す場所にしたい」という榎本さん。その思いは30年間、変わりません。春と秋の開花期には、河川敷のこの場所で、花まつりも催されています。



河畔林とふれあい松戸川

飲み水の改善のために造られた川

さて、「なぜ河川敷に川が造られたか」に戻しましょう。榎本さんの話にあった「地下の浄化施設」がふれあい松戸川誕生のキーワードです。

話は1980年代にさかのぼります。当時、日本の河川、特に都市の中小河川は水質の悪化が著しく、それが市民生活にまで影響していました。江戸川の松戸地区の下流では、東京都(金町)と千葉県(栗山)が水道用水を取水していましたが、その水は「まずい、臭い」と大変不評でした。その原因として挙げられていたのが、松戸地区から江戸川に流れ出る坂川をはじめとする中小河川の水でした。当時の坂川は悪臭を放つほど、ひどく汚濁した川だったのです。

そこで国土交通省(当時、建設省)は、坂川など市内河川の水を集めて古ヶ崎の浄化施設できれいにし、さらにそれを江戸川には出さずに、浄水場の取水口を迂回して下流へ流すことを考えました(注)。

当初、この浄化水は導水管で地下を通す計画でしたが、市民からの提案もあり、開放型の川にすることになりました。そして川辺は人工的な護岸ではなく、既存の自然環境の再生力にまかせる自然工法が採られました。こうして珍しい河川敷の人工河川、ふれあい松戸川が誕生したのです。



通水から約1年後のふれあい松戸川



初夏のヨシ原 (古ヶ崎)

多様な野鳥も行き来する河畔林

川沿いに形成される樹林を河畔林と言います。1998(平成10)年の通水当時、ふれあい松戸川の河岸に草木はありませんでした。しかし、1年も経たないうちに河川敷は一面、緑の草地に変わりました。

古ヶ崎から河畔林沿いに戻り、赤塚樋門からは堤防上を歩き、小山地先まで2 kmほど続く河畔林とふれあい松戸川を眺めて歩きました。

河畔林で最も優勢な樹種はヤナギですが、エノキやサワグルミなど水辺を好む木々も多く見られます。サクラがあるところを見ると、一部には人の手で植えられたものもあるようです。

河畔林周辺の風景は季節によって姿や色合いを変えます。春は若葉のみずみずしい緑が美しく、夏は旺盛に背伸びをするヨシ原に、オオヨシキリのにぎやかな鳴き声が響きます。多くの野鳥が寄りつき、オオタカやノスリなどの猛禽類の姿も見られるそうです。

30年足らずで、ここまでみごとな河畔林ができるとは、自然の持つ生命力の強さを実感させられます。

ふれあい松戸川が物語る教訓

小山地先からふれあい松戸川の水は、堤防下をくぐって坂川に流れます。おもしろいことに、現在はその水の約半分は坂川を逆流する方向に流れるようになっていました。これにより、水流を循環させ、坂川の自然浄化が図られています。

すごいですね。水は流れがあれば自然に浄化されていくのです。その一方で水環境も含め、一度壊された自然を再生させようとすると、ものすごい費用と労力、時間がかかることも、ふれあい松戸川の事業は物語っています。



堤防からの河畔林

小山地先から葛飾橋まで足を延ばしてみましょう。この橋の中ほどから松戸市街をふり返ると、とても印象的な風景が広がります。松戸地区の中心市街が、まるで江戸川の水の上に浮いているように見えます。ふれあい松戸川散歩の締めくくりにふさわしい「川のまち・松戸」の眺めです。



「ふれあい松戸川」碑

(注)

古ヶ崎の浄化施設は、坂川の水質が大きく改善されたことから、その役目を終え、現在は稼働しておらず、ふれあい松戸川の水は江戸川から導水されています。



葛飾橋から望む松戸市街



歴史と水辺のミニさんぽ 街中に息づく生き物たちの園

松戸市区の坂川が流れる界隈は、さまざまな歴史上の逸話が伝わるかつての宿場町。そして汚濁河川から脱却した坂川がもたらす都市の水辺は、今では人が集い、街のにぎわいをつくり出すようになりました。その川筋を歩きます。



坂川ひろば



水草が揺れる水面

きれいになった坂川の水

キテミテ松戸の裏手に「坂川ひろば」と呼ばれる親水護岸があります。春雨橋下を流れる坂川が、松戸神社へ向かって折れ曲がるところに階段があり、岸边へ下りられるようになっています。

その岸边から川をのぞくと、水草が揺れ、大きなコイが泳ぐ姿も見られます。すでに述べましたが、かつての坂川はひどく汚濁した川でした。こうして川底が水を透かして見えるなど、30年前には想像すらできませんでした。

ふれあい松戸川の運用、そして2002(平成14)年に始まった官民一体の坂川再生事業が、この変化をもたらしました。その継続的な取り組みを基盤とし、川を活かしたまちのにぎわいづくりが評価され、坂川は2023(令和5)年に、国土交通省の「かわまち大賞」を受賞しています。

坂川ひろばの対岸には、イベントスペースも備えた春雨橋親水広場。春雨橋の向こうには、坂川の水面の上に木々が枝を張る屋敷林が見えます。さらに、坂川沿いに春雨橋の先へも足を延ばしてみましょう。赤塚樋門へ川が分かれるところの対岸に、おそらく樹齢300年に達すると思われるケヤキの巨木が並んでいます。中心市街では希少で得がたい緑の風景です。



屋敷林と坂川



春雨橋親水広場



川湊として栄えた松戸の面影

春雨橋から市民劇場の方向へ歩いてみましょう。この本町通りは、江戸と水戸を結ぶかつての水戸道中です。

江戸時代、松戸は宿場町で金町松戸関所が置かれていました。そして、江戸川舟運で栄えた川湊でもあります。

一説に江戸川は、江戸へ物資を運ぶ川であることから、その名がついたといわれます。川は物資輸送の大動脈。なかでも松戸湊のにぎわいは、江戸川でも指折りだったと伝えられます。

春雨橋から南に宿場が連なり、幕府公認の船渡場がありました。そして宿場町の北の江戸川沿いが、納屋河岸と呼ばれた荷上場でした。坂川にかかる堂の口橋の先に「納屋河岸跡」の案内標柱が立っています。



松戸宿碑



納屋河岸 案内標識

剣豪・千葉周作の修行の地

春雨橋から市民劇場へ向かう間に、3つの寺があります。宝光院、善照寺、西蓮寺です。善照寺の入口にある案内板によると、剣豪・千葉周作が少年時代に松戸宿に住み、このあたりにあった道場で修行をしていたそうです。



千葉周作 修行之地

西蓮寺は、江戸末期に寺子屋が営まれていましたが、明治になってこの寺を仮校舎に、松戸市で最初の小学校が創立されました。それが現在の市立中部小学校の前身なのだと言います。

西蓮寺の向かいの細い道には、川湊らしい話が伝わっています。実はこの細道、金毘羅神社の参道なのです。では、金毘羅様はどこにおわすかというところと線路の向こう、中央公園下の斜面に鎮座しています。



西蓮寺

江戸川舟運は大正時代まで続きますが、河岸に着いた船乗りたちは、皆一群をなし、航海安全の神様である金毘羅様にお参りしたそうです。

わずか数百メートルの間にも、さまざまな歴史的な逸話が伝わっているのが旧宿場町らしいところです。

とうもろこし市から献灯まつりへ

さて、坂川に戻りましょう。松戸の総鎮守である松戸神社にお参りして、その先の松龍寺へ。徳川将軍家にゆかりのある寺ですが、毎年8月に開催される「松戸宿坂川献灯まつり」の由来となっている寺でもあります。



松龍寺

江戸の昔より松龍寺境内の「すくも観音」の縁日に、とうもろこし市が立っていました。松戸宿の夏の風物詩となっていたこの縁日を、盛大に復活させたのが今日の「松戸宿坂川献灯まつり」です。春雨橋からレンガ橋（小山樋門）までの坂川沿いを舞台とするこのお祭りは、地元の方々が発起し、2006(平成18)年から続けられています。近年では、3万人もの人出で賑わうそうです。

そもそも坂川は、江戸時代中期から洪水対策として段階的に掘削を繰り返してきた人工の川です。献灯まつりは、そうした坂川開削に携わった人々の苦難を偲ぶまつりでもあります。

ハグロトンボが舞う都市の川

坂川沿いを歩いていると、ときどき川岸に降りられる階段を見かけます。水辺に近づけるようになっているのです。

坂川再生事業の一貫として、河岸を歩ける通路が設けられました。今は、安全確保のために閉じられている階段もありますが、下りられるところが数カ所あります。



坂川河岸から

岸辺から見上げると、川におおいかぶさるように茂る木々の緑が爽やかで、上から見るのとは違った「川のまち」の風景があります。また、松龍寺界隈の岸辺では夏、市街地の川では珍しいハグロトンボやアオスジイトトンボにも出会えます。

松龍寺からさらに下流へ歩くと、3連アーチのレンガ橋が見えてきます。正式名称は小山樋門。もとは増水時の水位を調整するための水門ですが、今は橋として使われています。

建設は約130年前の1898(明治31)年。県内に現存するレンガ造りの河川構造物で、しかも現役で利用されているものとしては最古です。また、平成28年度に土木遺産に認定されました。



小山樋門（通称：レンガ橋、めがね橋）

春雨橋あたりからここまで歩くだけでも、坂川沿いにはさまざまな物語が埋め込まれています。中小の都市河川の多くは、かつては汚濁にまみれ、人々の生活からかけ離れた存在でした。しかし、坂川においては、地域の方々が寄せる愛着と再生への熱意が、この川を再びまちの表舞台に立たせました。

人が集い、にぎわいを生む、地域の顔、地域の誇りとなる場所に。いえいえ、人だけではありません。今の坂川は、さまざまな生き物も集まる豊かな水辺によみがえっています。

献灯まつり

献灯まつりは
こちらから▼



地域住民の手により平成18年から、お盆の時期に開催されてきた松戸宿坂川献灯まつり。とうろうの光が川面に揺れる幻想的な風景は、今や松戸の夏の風物詩。

松戸の歴史と人々の暮らしに深くかかわってきた坂川。その自然の恵みや坂川を開いた先人たちへの感謝の気持ちを表す行事として、川沿いに行灯や提灯を並べ、とうろうを流すノスタルジックなお祭りです。

とうろう流し



願いを書き、組立、自らの手で川に放つとうろう流し。坂川を彩る幻想的な風景！

とうもろこし市



一本一本丁寧に焼かれるとうもろこし。とうもろこし市の起源は江戸時代

縁日屋台



かき氷や焼きそばなど祭りを盛り上げる縁日屋台が坂川沿いに勢ぞろい

河川清掃



地域の方々による河川清掃活動。川に入ってゴミ拾い

坂川ながるるプロジェクト

坂川ながるる
プロジェクト
はこちらから▼



春雨橋親水広場を中心に、みんなの「やってみたい」を試し、実現する「坂川ながるるプロジェクト」が2024年より始動！地域の方々をはじめ、多くの市民の「やってみたい」を実現することで、春雨橋親水広場周辺のにぎわいの創出を図る取り組みです。下記はこれまでの活動の一部。今後も様々な活動を予定！

シンポジウム



その道のプロの知恵をもらって「やってみたい」を実現へ

ながるるのあそびば



みんなの「やってみたい」を実現させる第一歩！みんなであそびながらチャレンジ！

ブックマーケット



本や読み聞かせ等によるブックマーケット。ハレの場で「やってみたい」を披露！

ながるるシネマ



みんなで星空の下で楽しむ「屋外シネマ」を実験



松戸市内には、有名な桜並木がいくつかありますが、川筋の桜並木もなかなかのもの。坂川～新坂川沿いの桜名所をたどるウォーキングはいかがでしょう。ここで紹介するのは、そのなかのお勧めスポット！ コースの途中では学校や公園、駅前広場の桜や花壇なども楽しめます。

松戸神社を起点に新松戸駅までは約6km。ゆっくり見て歩いて1時間半から2時間のコース。でも「その距離はちょっときつい」という方は、常磐線各駅停車を使い、最寄り駅から訪ねてみるのもいいと思います！

<坂川 松戸エリア> 河津桜も人気の松戸神社界隈

松戸神社の境内にはソメイヨシノが多く、松戸駅に間近な桜名所として知られます。特に参道に架かる朱色の潜龍橋（せんりゅうきょう）と桜とのコントラストがきれいです。また、松戸神社からレンガ橋にかけて植えられている色鮮やかなカワヅザクラは、2月中旬頃から咲き始め、開花時期の夜間はライトアップもされて、幻想的な夜桜を楽しめます。3月上旬には「松戸宿坂川河津桜まつり」が催されます。アクセス：JR松戸駅より徒歩約7分



<新坂川 北松戸エリア> 川辺に並ぶボリューム満点の桜花

北松戸から馬橋までの中ほどにあるURの賃貸住宅「プロムナード北松戸」。その新坂川沿いの道に300mほどの桜並木があります。この道は「北松戸桜通り」とも呼ばれています。歩道にはところどころに川に張り出したデッキもあります。昨年、少し枝払いをしたようですが、成熟した木ばかりで開花期にはみごとな花を咲かせます。アクセス：JR北松戸駅より徒歩約8分



<新坂川 馬橋～新松戸エリア> 多種の桜が楽しめる新松戸緑道

新坂川は、昭和初期に開削された川ですが、開削に携わった方々が植えた桜が、今も馬橋から新松戸間に残っています。馬橋駅西口の駅前広場は新坂川のすぐそばです。電車で行く場合もここから歩いてみてはいかがでしょう。新坂川の左岸、流山鉄道を右に見ながら行くと、富士見橋の先から桜並木が始まります。途中にしだれ桜が並ぶ区間があり、御衣黄（ぎょいこう）という黄緑色の花を咲かせる八重桜があるなど、異なる品種の花を楽しめる緑道です。アクセス：JR・流鉄馬橋駅から徒歩約20分 / JR新松戸駅から徒歩約15分。



ここもお勧め！ 国分川桜並木

国分川の黎明橋から獅子舞橋までの1.2kmは、治水対策のため、もとは10mほどだった川幅を約40mにまで拡幅した区間。これも、全国的に珍しい河川整備事例です。ふれあい松戸川と同様に自然工法が用いられ、市民参加で川づくりが行われました（2006年完成）。その後、この両岸に地域の市民団体とともに植えられた80本の桜が、今では立派な成木に育っています。土のままの河岸に咲く菜の花のじゅうたん桜の風景が楽しめる散歩道です。アクセス：京成バス千葉ウエスト「松戸駅東口」から「東松戸駅」行で「春木川」下車、徒歩約5分



行人台エディブルガーデン（仮称）

— 食べられる景観が育てる新しいコミュニティ —

松戸市小金地区で始まった「行人台エディブルガーデン」。野菜やハーブなど食べられる植物を用いた“食べられる景観”づくりを通して、地域のつながりを育む取り組みが動き出しています。

小金で始まる新たな景観づくり

「行人台エディブルガーデン（仮称）」の活動は、小金地区で進められている「北小金駅周辺地区都市再生整備計画」の一環である「行人台緑地整備事業」として実施されます。令和7年度は、1年を通じて、見学会や、計画づくりのワークショップを実施し、地域のみなさんの声を取り入れながら、計画づくりをすすめました。いよいよ令和8年度から花や野菜を育てる活動を始めます。

松戸市みどりの基本計画のテーマである「みどりと暮らす豊かさを実感できるまちづくり」の実践の場として、みどりと人・暮らしを結び、人と人がつながることで、地域住民の交流、地域コミュニティの場をつくりることが目的です。



「エディブル・ランドスケープ（食べられる景観）」とは

エディブル (edible) は「食べられる」、ランドスケープ (landscape) は「景観」を意味します。

果樹や野菜、ハーブなど、食べられる植物を取り入れた景観づくりは、世界各地で広がりを見せています。街の緑を楽しむだけでなく、地域の交流や環境教育にもつながる取り組みとして注目されています。

みんなで作るガーデン

2025年春より、上映会や説明会、見学ツアーを開催し、地域の皆さんとともに学びと対話を重ねてきました。

ワクワクミーティング（全3回）では「何を植えるか」「どのように使うか」を話し合い、ガーデンデザインをつくってきました。

ワークショップでは、ガーデンを4つのテーマに分けて構想しました。

食べる：野菜や果樹を育て、収穫を楽しむエリア。季節ごとの実りを体験。

香りハーブ・花：ハーブティーや薬味に使える植物、香りを楽しむ花を植える。

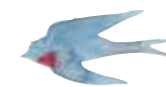
クラフトハーブ：草木染めやスワッグづくりなど、植物の活用を広げる。

遊び・学び・いきもの：食育や環境学習、生きものとの共生を考える。

2026年春 活動スタート

2026年春から、苗の植え付けや定期的な活動が始まります。

地域のみなさんとともに育てるこのガーデンは、時間をかけて少しずつ形づくられていきます。地域の手で育てる、新しい松戸の風景が始まります。



EDIBLE GARDEN

これまでの活動はこちら▶



「EDIBLE CITY 都市を耕す」映画上映会



EDIBLE WAY 見学ツアー



ワクワクミーティング

「みどりと暮らす豊かさを実感できるまちづくり」

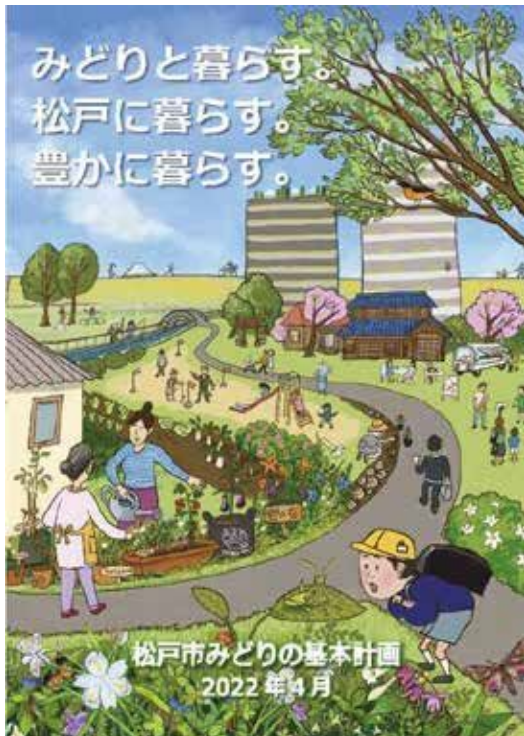
松戸市の将来像である「暮らしが自然と調和する緑のふるさと松戸」の実現に向け、行政・市民・企業の3者が一体となって、みどりと共に暮らす豊かさを大切に思い、松戸のみどりを育てていくために「松戸みどりの市民憲章」を制定しました。

「松戸みどりの市民憲章」（抜粋）

1. 松戸市民はみどりと暮らす豊かさを大切にします。
1. 千年来のみどりの声に耳を傾け、百年後のみどりを育てます。
1. 子どもたちの夢とあそびを受けとめるみどりをいっぱいにします。

2004年(平成16年)10月1日制定

「みどりの基本計画」知っていますか？



みどりの基本計画とは、緑地の保全と緑化を進めるための計画です。

松戸市では、2022年(令和4年)3月に、これまでの計画を刷新し、新しい「松戸市みどりの基本計画」ができました。

「松戸みどりの市民憲章」を目指し、「みどりと暮らす豊かさを実感できるまちづくり」をテーマにしています。みどり豊かな環境づくりやプログラムづくりにより、みどりのある多様なライフスタイルを目指します。

松戸市みどりの基本計画
ホームページQRコード



みどりのあるライフスタイルの楽しみ方

みどりのあるライフスタイルを日常生活のワンシーンとして7つに表現しました。様々なみどりの中で、多様なライフスタイルを楽しむヒントが見つかります！

憩 **いこう** みどりの中で、くつろぎ、心のゆとりを感じられる暮らし

育 **はぐくむ** みどりの魅力や育てる喜びを感じ、緑に彩られた暮らし

動 **うごく** 心身の健康を守り、生き生きとした暮らし

食 **たべる** くだものや野菜、ハーブなどの収穫や食を楽しむ暮らし

遊 **あそぶ** 子どもたちの夢とあそびのある暮らし

集 **つどう** まちのにぎわいや楽しさを感じられる暮らし

働 **はたらく** 多様なワークスタイルとライフスタイルの提案



みどりのメッセージブック vol. 3

発行日：2026年4月29日

発行：松戸市

お問合せ：松戸市街づくり部みどりと花の課

Tel. 047-366-7378



みどりをはぐくむ
明日のために

©Expo 2027